

都市の魅力

持続可能で魅力的な国土形成を目指して

参加費 **無料**
定員 **100名**

要申込、先着順

日時

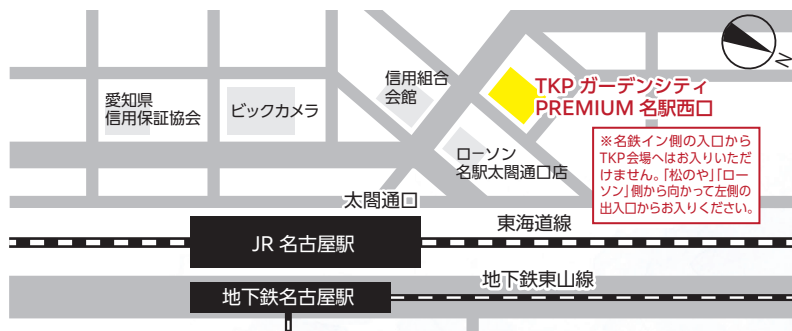
9月28日(水)

13:30-15:30 (13:00開場)

会場

**TKPガーデンシティ
PREMIUM名駅西口 3F:カペラ**

名古屋市市中村区則武1-6-3 ベルヴェオフィス名古屋 3F
<https://www.kashikaigishitsu.net/facilitys/gcp-meieki-nishiguchi/access/>



● 登壇者



明治大学名誉教授
市川 宏雄



岐阜大学客員教授
加藤義人



名古屋学院大学
現代社会学部教授
江口忍

参加申し込み ▶

<https://forms.gle/vWmarPD0G3dfi8n58>



お問い合わせ ▶

iusall@mori-m-foundation.or.jp

※会場ではマスクの着用をお願いいたします。会場でのソーシャルディスタンスの確保などにご協力をお願いいたします。新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては完全オンライン開催に変更になる場合もございます。その場合、申込時のメールアドレスに ZOOM URL をご案内いたします。

主催：森記念財団 都市戦略研究所
後援：名古屋市

● 趣旨・目的

世界の総人口が今後も増加を続けていくと予測されている一方、日本では少子高齢化および急速な人口減少が見込まれている。そのような状況に直面してもなお、日本全体が活力を保ち続けるためには、各都市がそれぞれの“特性”を活かしながら都市づくりを進め、人や企業を惹きつける「磁力」と、魅力や強みを継続的に発揮し続ける「発展性」を維持していかなければならない。そのためには、各都市が現在の都市の魅力、歴史的・文化的・地理的なコンテキストも含めて客観

的に把握した上で、次の時代に向けた都市戦略を立案し、実行に移していくことが求められる。

そこで、当連続シンポジウムの第2回は、2027年にリニア中央新幹線の開通が予定されており、さらなる発展が見込まれる中部圏の中心都市である名古屋市が、今後、どのような都市戦略で日本全体に活力をもたらししていくべきなのかについて、名古屋で活躍されている都市の専門家とともに様々な側面から議論する。

● スケジュール

🕒 13:30-14:00

市川 宏雄

「日本の都市特性評価 2022」
によって明らかになった名古屋市の魅力と課題

🕒 14:00-14:30

加藤 義人・江口 忍

名古屋市の魅力と課題、過去・
現在・未来を見据えて魅力を
伸ばすための施策は何か

🕒 14:30-15:15

パネルディスカッション

課題を解決するためにすべき
ことは何か、各アクターの
役割とは

🕒 15:15-15:30

質疑応答

● 登壇者略歴

市川 宏雄

明治大学名誉教授。

東京の本郷に1947年に生まれ育つ。都立小石川高校、早稲田大学理工学部建築学科、同大学院修士課程、博士課程(都市計画)を経て、カナダ政府留学生として、カナダ都市計画の権威であるウォータールー大学大学院博士課程(都市地域計画)を修了(Ph.D.)。一級建築士でもある。

ODAのシンクタンク(財)国際開発センターなどを経て、富士総合研究所(現、みずほリサーチ&テクノロジーズ)主席研究員の後、1997年に明治大学政治経済学部教授(都市政策)。都市工学出身でありながら、政治学科で都市政策の講座を担当するという、日本では数少ない学際分野の実践者。2004年から明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科長、ならびにこの間に明治大学専門職大学院長、明治大学危機管理研究センター所長を歴任。

現在は、日本危機管理防災学会・会長、日本テレワーク学会・会長、大都市政策研究機構・理事長、日本危機管理理士機構・理事長、森記念財団都市戦略研究所・業務理事、町田市・未来づくり研究所長、Steering Board Member of Future of Urban Development and Services Committee, World Economic Forum(ダボス会議)in Switzerlandなど、要職多数。

加藤 義人

岐阜大学客員教授、名古屋都市センター特任アドバイザー。

岐阜市出身。東京理科大学理工学研究科土木工学専攻修士課程を修了後、(株)野村総合研究所に入社。主として国土計画や、地域開発の証券化をテーマとする調査・コンサルティング活動に従事。その後、(株)東海総合研究所に移籍。合併により(株)UFJ総合研究所、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)と社名は変遷したが、25年間にわたり名古屋を拠点にシンクタンク活動に従事。主席研究員、執行役員を歴任して2019年に退任し現職。

専門領域は広域地方計画、社会資本整備の経済効果分析、PPP/PFI、行財政改革など。主眼としたのは、公共事業・行政運営を対象に経済的側面、ファイナンス的側面、経営的側面からのアプローチで課題解決に当たる事。現在も様々な地域づくりにアドバイザーとして関与する他、テレビコメンテータなどとしても活動を広げている。公職歴としては、国土交通省社会資本整備審議会道路分科会中部地方小委員会委員、愛知県行政改革の推進に向けた外部有識者による公開ヒヤリング座長、名古屋国際会議場整備運営事業(PFI)事業者選定委員会委員長、岐阜市行財政改革推進会議会長等を多数歴任。その他に、サンデージャーナル(テレビ愛知2016-)、チャント!(CBC2020)等に出演。

江口 忍

名古屋学院大学現代社会学部教授。

1965年名古屋市生まれ。現在は岐阜市在住。1987年名古屋大学法学部卒。日本長期信用銀行入行。ロンドン勤務などを経て1997年共立総合研究所(現OKB総研)入社。2010年に同社副社長。2015年から大学教員に。専門は都市戦略・地域戦略。最近のテーマは、リニア時代の地域戦略とポストコロナ時代の名古屋都心のあり方。名古屋人としての皮膚感覚とデータに基づくユニークな名古屋経済の分析で知られる。中日新聞でコラム「景気球」を20年間、「中日新聞を読んで」を5年間担当。経済以外にも広い視野を持つ。